1 沖縄における過疎・離島地域の課題

■沖縄における過疎・離島地域の現状

人口　沖縄本島中南部、北部よりも**早く人口が減少、少子高齢化が進展。様々な分野で人手が不足。**離島自治体職員の定員割れや、保育士の不足による幼稚園の休園等も発生。（伊平屋、渡嘉敷、与那国等8町村）

交通　少量であるが**移動ニーズが多様。しかし、人手不足等、対応が出来ない。**高齢者の移動は自家用車に依存しており、**このままでは将来的に事故の増加に繋がることが懸念**される。

福祉　要介護3程度になると、施設等のある沖縄本島等へ移らざるを得ないため、**高齢者等が住み続けることが難しい。**

■離島地域における移動の問題点

1. **高齢者の自家用車への依存及び安全運転への懸念**
2. **人口減少の中、公共交通を維持するための負担**
3. **島内の移動手段の不足**
4. **全ての分野での人手不足**
5. **少量なために発生する非効率な輸送などの低いサービス水準**

■離島における多様な移動ニーズ

シニアカーによる高齢者の移動（小浜島）

商店での買い物（自動車）（多良間島）

福祉事業者による配送サービス（ホテルの食事を受け取り中）（波照間島）

観光客の送迎（渡嘉敷島）

デマンドタクシー、路線バスによる輸送（粟国島）

ガソリンの輸送（座間味島）

商店等による物資の受け取り（多良間島）

宿泊施設関係荷物の輸送（多良間島）

2 国による自動運転社会実験ビジネスの課題、新たなモデル取組方針

■社会実験ビジネスの課題

- 国内では、国土交通省、経済産業省、内閣府等で様々な自動運転に関する研究・実証実験を実施。
- 多くは高額な運行委託によるもので、特に専門員の人件費が大きい。
- 高コストなシステム等を導入した場合、国補助が終わると持続性が課題。
- **人口減少下である小規模離島・過疎地域において、高コストなシステム等を持続的に支えることは困難。**

⇩

新たなモデルが必要 ⇨ **他の離島・過疎地域へ横展開**

■新たなモデルの取り組み方針

- **地域住民との共創**により、レベル２での無人化を目指す等、**低廉なコストかつシンプルで持続可能な新たなモデルを実現**し、**健康で長く島に住み続ける地域づくりを目指す**。

自動運転技術	様々な分野との連携(リ・デザイン)	地域住民との共創

事業概要【令和６年度自動運転移動サービス社会実装検討業務】

目指す姿

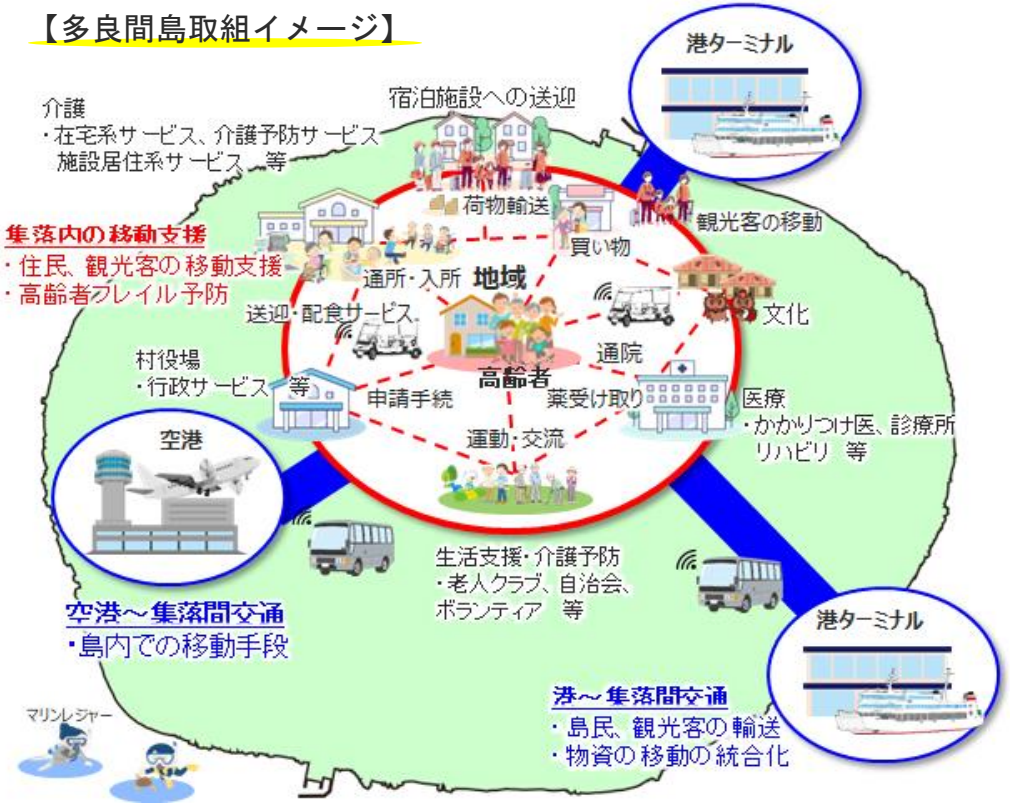
- ○ 自動運転技術（Lv4）を活用し、人口減少下の離島・過疎地域おいても低廉で持続可能な移動サービスの提供をめざす。
- ○ 走行システムの低廉化に向け、①自動運転走行システムのシンプル化、②住民合意による安全面のルールづくり等に取り組む。
- ○ 多良間において技術移転等により地元で運行できるモデルを構築し、県内離島・過疎地域への横展開を検討していく。

事業概要(全体事業期間：R6～　2･3年程度)

①R6.5月(予定)～
　○移動実態調査（様々な分野との連携）
　○住民ワークショップ等（ルールづくり等）
　　1回/1～2ヵ月

②R6.10～12月　　**【公募対象】**
　○技術検証〈沖縄本島内〉
　　GSM（カート）走行検証
　　低廉化を図るシステム開発等
③R6.12月～R7.２月
　○実証実験〈多良間島〉
　　集落内（GSM）走行検証
　　安全ルールの試行・検証　等

【多良間島取組イメージ】

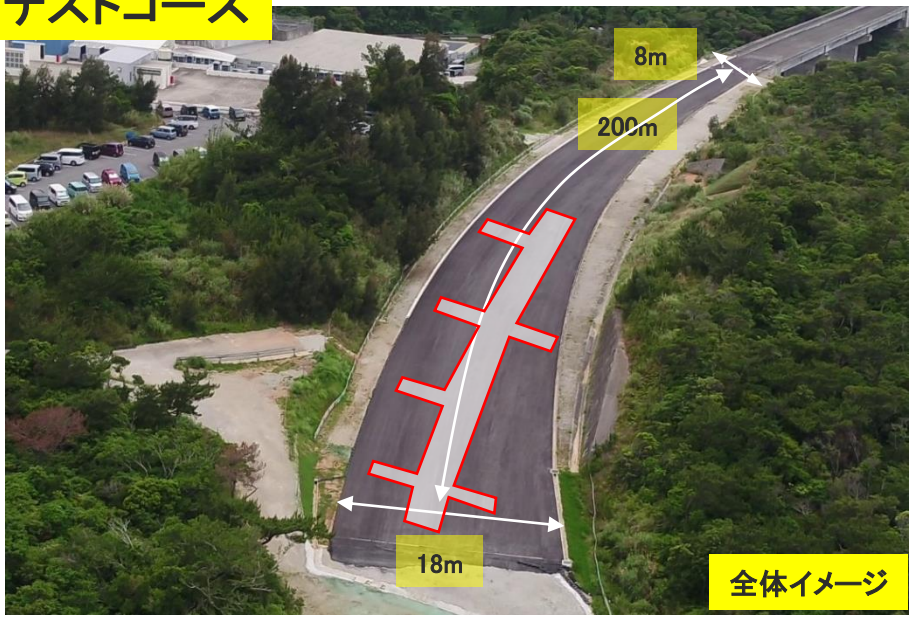


技術検証概要

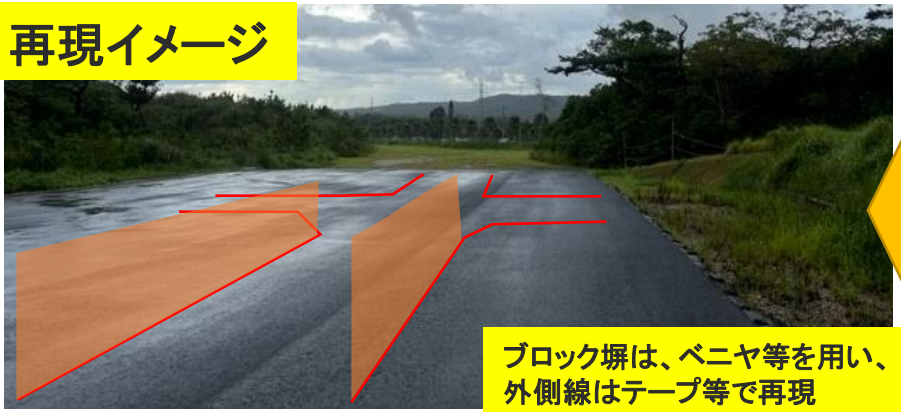
○事業中の読谷道路の一部区間に離島の道路空間（狭隘区間、交差点部等）を再現した【読谷道路テストコース】を用意
○導入予定の車両や自動運転方式を用い技術検証を行う

技術検証位置（読谷道路）

テストコース



再現イメージ



自動運転交通サービス内容（運行ルート検討）

■運行ルート（案）多良間島集落内

- 近隣の畑での作業用具を乳母車に積み、押しながら歩いていく女性高齢者

- 杖代わりに自転車を押しながら歩く女性高齢者

自治体の意見を踏まえたルート案：役場周辺を起終点

1周：15分程度（20km/h）

【考え方】
- 住民福祉課、総務財政課の意見を踏まえ、各施設（乗り場所）を結ぶルートを整理
- 役場周辺を起点に8の字ルートで運行
- 本内容はヒアリングを行ったうえでの事務局案であり、決定されたものではない。今後、自治体、地元関係者、地域住民等と合意形成を図りながら決定